

令和3年度病害虫発生予報第11号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	退緑黄化病 (防除情報第22号)	多	多
	べと病	並	並
	うどんこ病	やや少	やや少
	褐斑病	少	少
	菌核病	並	並
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	やや多	やや多
	灰色かび病	やや多	やや多
	コナジラミ類	やや多	やや多
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	やや多	やや多
たまねぎ	べと病 (防除情報第23号)	並	並
	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ (防除情報第24号)	多	多
茶	カンザワハダニ	並	並

【発生予報】 本文の () 内は平年値

きゅうり

1. 退緑黄化病

令和4年2月15日付け令和3年度病害虫発生予察防除情報第22号による。

2. べと病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は2.8%(3.2%)、発生圃場率は33.3%(25.4%)であった。

3. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.0%(3.8%)、発生圃場率は33.3%(45.8%)であった。

4. 褐斑病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率0.0%、発生圃場率2.1%）。

5. 菌核病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病果率0.0%、発生圃場率0.8%）。

6. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（発病果率0.0%、発生圃場率1.0%）。

7. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は0.9%（1.9%）、発生圃場率は33.3%（21.3%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。

イ ミナミキイロアザミウマは黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV：メロン黄化えそウイルス）を媒介するので、防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P158～161の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

エ 하우스外への飛び出しを防ぐため、栽培終了後は施設の開口部を密閉し、日中の室温50℃以上を1週間以上維持し本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

8. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は1.1%（0.8%）、発生圃場率は25.0%（15.7%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので、黄色粘着トラップを施設内に設置して早期発見に努め、発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV：ウリ類退緑黄化ウイルス）を媒介するので、防除を徹底する。

ウ ハウス内の雑草はタバココナジラミの生息場所、増殖源となるので除去する。

エ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P158～161の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

オ ハウス外への飛び出しを防ぐため、栽培終了後は施設の開口部を密閉し、日中の室温50℃以上を1週間以上維持し本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

トマト

1. 黄化葉巻病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
 (2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病株率は5.4%（0.2%）、発生圃場率は25.0%（21.3%）であり、一部多発圃場が見られた。

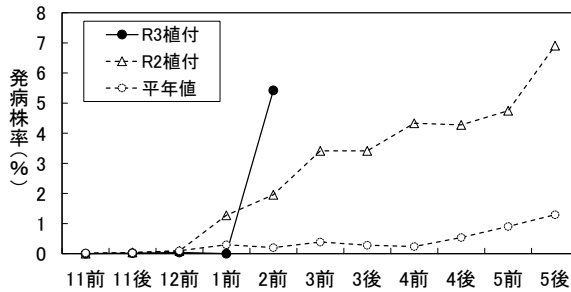


図 トマト 黄化葉巻病 発病株率の推移

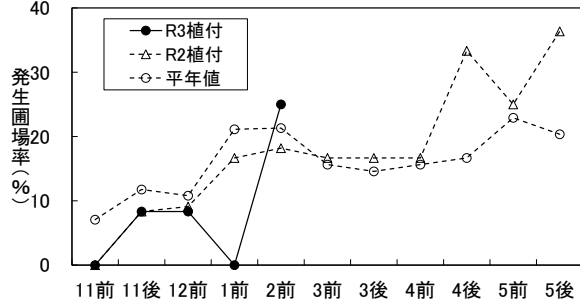


図 トマト 黄化葉巻病 発生圃場率の推移

- (3) 防除上注意すべき事項

タバココナジラミの防除を徹底するとともに、ハウス内の発病株は二次伝染源となるので、見つけしだい直ちに抜き取り、施設外に持ち出し適正に処分する。

2. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
 (2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病果率は0.3%（0.0%）、発生圃場率は16.7%（2.1%）であった。発病葉率は0.1%（過去9か年平均 0.3%）、発生圃場率は8.3%（過去9か年平均 15.8%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 被害果等の発病部位や花卉は伝染源となるので、早期に取り除きハウス外へ持ち出す。

イ 換気を図り、ハウス内が多湿にならないような管理に努める。

ウ 予防的な防除に努め、防除にあたっては、薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P180～185の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

3. コナジラミ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
 (2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は3.2%（0.8%）、発生圃場率は33.3%（31.0%）であった。

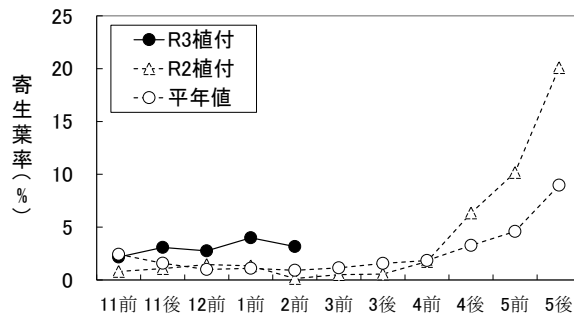


図 トマト コナジラミ類 寄生葉率

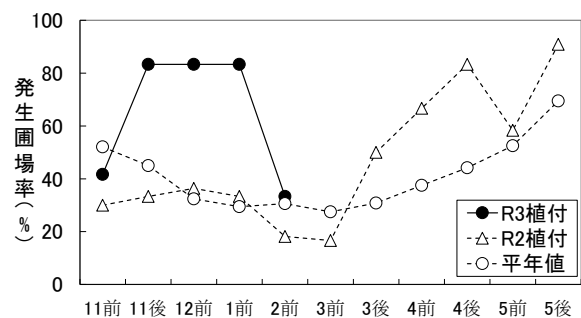


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 黄色粘着板等で本虫の発生状況を把握し、防除に努める。
- イ タバココナジラミは黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV：トマト黄化葉巻ウイルス）を媒介するので、防除を徹底する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P186～189の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。
- エ コナジラミ類は葉裏に多く寄生しているので、かけむらがないように丁寧に薬剤散布する。
- オ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。
- カ 施設内の雑草は、本虫の増殖源となるので除草を徹底する。密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

いちご

1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
2月前期の巡回調査（27筆）の結果、葉および果実での発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.1%、発病果率 発生を認めない、発生圃場率0.4%）。

2. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
2月前期の巡回調査（27筆）の結果、発病果率は0.1%（0.1%）、発生圃場率は14.8%（17.8%）であった。

3. アブラムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
2月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は1.6%（0.8%）、発生圃場率は18.5%（11.7%）であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 早期発見、早期防除に努める。
 - イ 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵への影響を考慮する。
 - ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P216～219の「作用機構による分類（IRAC）参照」）の薬剤の連用を避ける。

4. ハダニ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
2月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は12.7%（7.5%）、発生圃場率は51.9%（48.2%）で、一部多発生圃場が見られた。

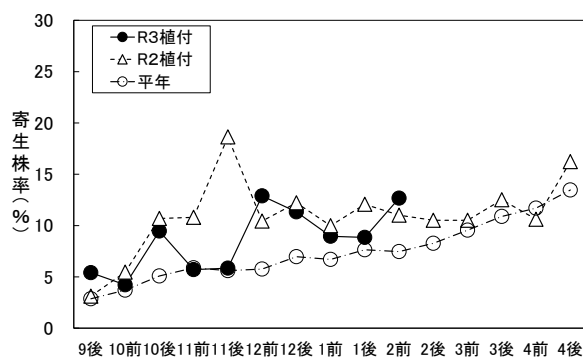


図 いちご ハダニ類 寄生株率

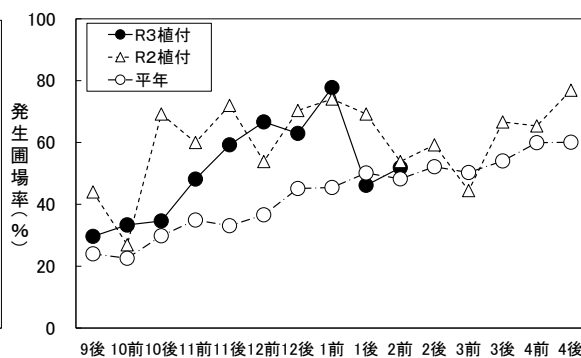


図 いちご ハダニ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 早期発見、早期防除に努める。また、防除効果をもとめるため薬剤散布前に古葉を除去し、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- イ 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵のカブリダニ類等への影響を考慮する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P216～219の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

たまねぎ

1. ベと病

令和4年2月15日付け令和3年度病害虫発生予察防除情報第23号による。

2. 白色疫病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
2月前期の巡回調査（16筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

3. ネギアザミウマ

令和4年2月15日付け令和3年度病害虫発生予察防除情報第24号による。

茶

1. カンザワハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
2月前期の巡回調査（15筆）の結果、寄生率率は0.5%（0.6%）、発生圃場率は13.3%（14.1%）であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 2月下旬頃から産卵を始めるので、一番茶の被害を予防するためにも早春の防除を徹底する。
 - イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P430～433の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

【参考】

気象

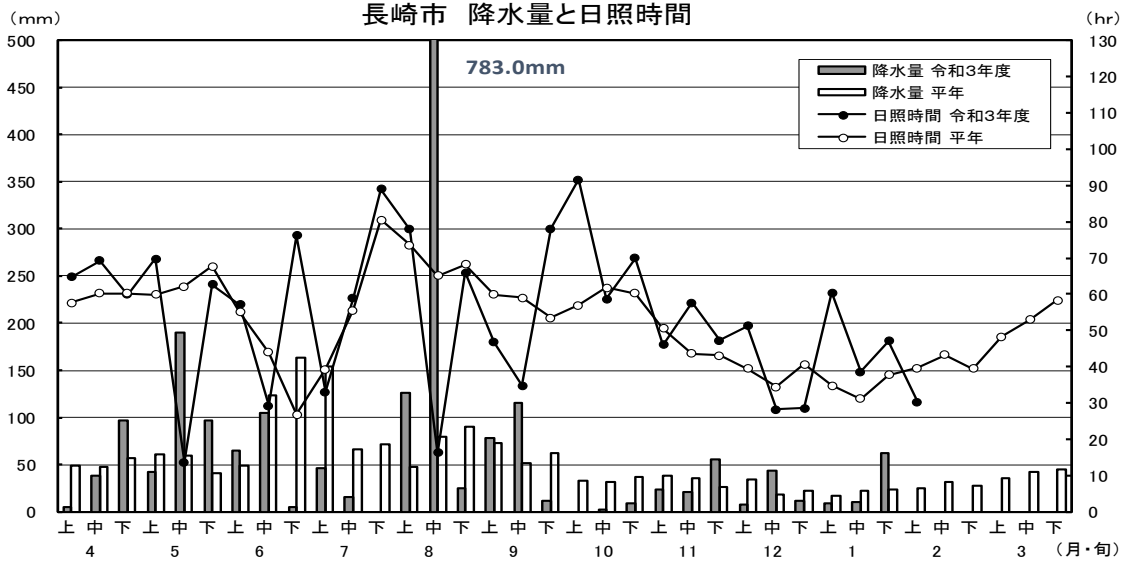
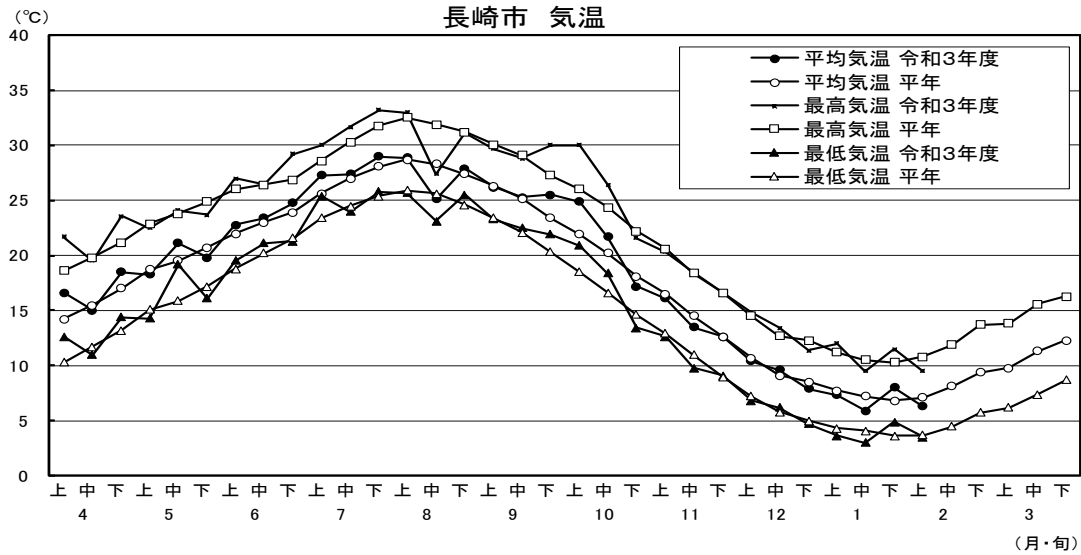
(令和4年2月10日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	50	30	20
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

※予報対象地域：九州北部地域

令和3年度の気象経過 (長崎地方气象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
 「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
 (長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>



○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室 (長崎県病害虫防除所)
 TEL：0957-26-0027